

ミシェル・セール『ヘルメス』と記号

高橋輪（慶應義塾大学）

発表要旨：

二十世紀フランスの哲学者ミシェル・セール（1930-2019）の哲学には、普遍記号学を構想したライプニッツに淵源し、同時代のブルバキの構造主義や分子生物学の進展とも響き合いながら磨き上げられていった深い記号論的な思惟がある。本発表は、その核となる概念として「表意的」（idéographique）と「信号的」（signalétique）という二つの記号体系の区別を取り上げ、この対比構造が彼の理論的著作集『ヘルメス』を中心として、その一般的コミュニケーション論を読み解くうえで重要な理論的示唆を持つことを論じる。

これらの区別は、『ヘルメス』第一巻『コミュニケーション』（1969）での数学史の考察において現れ、『ヘルメス』第五巻『北西航路』（1980）においては、表意的体系はエジプトのヒエログリフ、信号的体系はギリシアのアルファベットと結びつけて論じられることとなる。表意的体系と信号的体系の対話を震源とするギリシアにおける幾何学の誕生こそが、セールの考える一般的なコミュニケーションのほかならぬ範例であった（清水 2025）。このことを踏まえて、続く『ヘルメス』の諸巻を読み直してゆくと、この区別は、第二巻『干渉』においてはエピステモロジーに、第三巻『翻訳』においては現代進化論に、第四巻『分布』においては情報論および生命論に、それぞれ確認することができ、いずれも一般的なコミュニケーションにまつわる根源的な問題として論じられていることが見てとれる。

最後にこれらの使用例を総括して鑑みるに、「表意的」と「信号的」というこの二つの記号体系の区別は絶対的なものではなく、あくまでも比較される記号体系同士の関係性によって決定される相対的なものであり、その区別にはそれらの記号体系同士が「最も対照的である」ことが要請されなければならない。すなわち「反対の一致」（Coincidentia oppositorum）こそが翻訳の必要条件である、ということを、結語として論じる。

参考文献

- Michel Serres, *Hermes I La communication*, Editions de Minuit, 1969. 邦訳『コミュニケーション』（ヘルメス I）、豊田彰訳、法政大学出版局、一九八五年。
- Michel Serres, *Hermes II L'interférence*, Editions de Minuit, 1972. 邦訳『干渉』（ヘルメス II）、豊田彰訳、法政大学出版局、一九八七年。
- Michel Serres, *Hermes III La Traduction*, Editions de Minuit, 1974. 邦訳『翻訳』（ヘルメス III）、豊田彰、和田裕訳、法政大学出版局、一九九〇年。
- Michel Serres, *Hermes IV La Distribution*, Editions de Minuit, 1977. 邦訳『分布』（ヘルメス IV）、豊田彰訳、法政大学出版局、一九九〇年。
- Michel Serres, *Hermes V Le Passage du nord-ouest*, Editions de Minuit, 1980. 邦訳『北西航路』（ヘルメス V）、法政大学出版局、一九九一年。
- 清水高志「ミシェル・セール『ヘルメス』の諸相」『情報デザイン研究』1 巻 1 号（2025）pp.5-13.